

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→⑤ 神の預言の確かさ

終末論

—その1—

「この世の終わりのときのこと」についての聖書研究

シリア危機

*紛争の勃発

反政府運動が市民戦争に発展して四年

シリアでは、アサド政権、イスラム国（ISIS）、反政府勢力同盟軍、クルド人勢力がそれぞれ領土を占拠して、紛争が続いている

*犠牲者

二十五万人以上のシリア人殺害、百万人が負傷、ほぼ一千百万人は家を失い、

そのうちの四百万人は国外へ逃亡

危険を冒してヨーロッパへ難民として移動する人たち、増加

*イラン、ロシア、レバノンのヒズボラは、シリアのアサド政権を支援

トルコ、サウジアラビア、カタールは、反政府軍を支援、米国、英国、仏はこの勢力を支援

*シリアのアサド大統領、10月27日（火）に、突然、ロシアを訪問

⇒ロシア、シリア政権支援の意向を明確に表示

世界的に高まっている「予測できない未来への不安」

*シリア紛争へのロシアの軍事介入

*力を増しているイスラム国（ISIS）

*イランの核武装化への野心

*高まっているイランとサウジアラビア間の緊張

ロシア軍とイラン軍、現在、イスラエルから数キロメートル北部のシリアで戦闘

⇒エゼキエル書38、39章の預言「ゴグ・マゴグの戦い」への関心の高まり

ヨーロッパ危機

*この九月以降、中東、イランやシリアからの難民、ヨーロッパに流入

*チェコ、スロバキア、ハンガリー、ルーマニアの四国、欧州連合の難民割り当てに反対、ハンガリーは国境閉鎖、通過点の小国への重圧で欧州連合内の不協和音増大

*多くは、経済難民、出稼ぎ労働者、平和とよりよい生活を求めて、ドイツに移動

大移動への聖書の言及

☆キリスト、「産みの苦しみの初め」（マタイ24：8）のしるしを予告

戦争、革命などの人災、ききん、洪水、土砂崩れなど天災、必然的に人々の移動を伴い、民族の大移動を招く

イスラム勢力、世界平和の脅威

†ヨーロッパでは、ほんの一握りのイスラム過激派組織、急進的なテロ事件を引き起こし、ヨーロッパのイスラム教化を促進

†信仰の継承を怠ってきた英国、ヨーロッパでは、イスラム教徒の影響力は脅威的

†東ヨーロッパ、中東難民（そのほとんどはイスラム教徒）受け入れを拒絶

†イスラム教徒、教会離れが起こって久しいヨーロッパの霊的真空状態に介入、ヨーロッパは霊的隷属状態下にある

聖書

聖書の裁きの預言

★いつも条件つき「もし…でなければ…」

⇒神、人々が悔い改め、ご自分に立ち返ることを望んでおられる

★神は、中東難民のヨーロッパへの流入を、キリストに不忠実で不信仰なヨーロッパへの懲らしめとして用いるおつもり、と解釈する霊的指導者たちは多い

イスラム教徒の真理への目覚め

イスラム教派の対立、イランとサウジアラビア間で昨今、表面化
イラン、三大聖地の一つメッカの管理人問題を提起

⇒中東だけでなく極東のイスラム教徒の間で、真理追及、終末論への関心の高まり

★インドネシアの例

インドネシア政府、首都ジャカルタからクリスチャンだけが住んでいる孤島へ多くのイスラム教徒を送り、定住させ、改宗させる政策を始めた
移住したイスラム教徒たちのほとんどは回心、キリストを救い主として受け入れた
政府の政策は失敗に終わり、十年後に中止
その後、福音、全インドネシアに飛び火

★英国の例

1960年以降、多くのパキスタン人が移民
多くの婦人、イスラム教から解放された

⇒キリスト信仰に生きることがこの世の宗教とは全く違っていることを、個々のキリスト者が隣人に証しすることによって、人々の魂を勝ち取ることができる

→キリストの教え、全人類の救いを願う真の神の御旨を反映
マタイ5：43-44

→⑥ 究極的に立証される神のすべての言葉

マタイの福音書 24 章

主の再臨前の「とき」のしるし

1. 4-5 節

惑わしの横行 —惑わしの教え（聖書解釈）、偽りの教理、偽預言（リーマ等）、奇蹟やしるし、超常現象への勧誘、奨励—

⇒ 黙示録 6：1-2

小羊の七つの封印の **第一**

★ 白い馬

2. 6-8 節

戦争、戦争のうわさ、大地震、飢饉と疫病

①6 節

戦争、戦争のうわさ

⇒ 黙示録 6：3-4

小羊の七つの封印の **第二**

★ 火のように赤い馬

②7 節

人災 —民族間、国家間の対立—

聖書

③7-8 節

天災 一ききん、地震一

➡ 黙示録 6 : 5-6

小羊の七つの封印の**第三**

* 黒い馬 (ききん)

➡ 黙示録 6 : 7-8

小羊の七つの封印の**第四**

* 青ざめた馬 (死)

これらは「**産みの苦しみの初め**」

3. 9 節

キリスト者の殉死 一キリスト者への迫害と支配者の前での弁明一

「わたし (キリスト) の名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます」

➡ 黙示録 6 : 9-11

小羊の七つの封印の**第五**

* 祭壇の下の人々の魂

4. 10-12 節

世界的な大混乱

一不法のはびこり、冷える愛、背信、信仰からの離反、つまずき一

5. 13-14 節

全世界 (あらゆる民族) への福音宣教の後、キリストは来られる

14 節

「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます」

神、ご自分の聖さ、栄光を現し、ご自分が神であることを知らせるために、特に、イスラエルの民には、ご自身を顕し、聖霊を注がれる御目的のゆえに、

「ゴグ・マゴグの戦い」を起こされる エゼキエル書 39 : 25-29

多くの人たちに艱難期の前に与えられる、救い主キリストを受け入れる、おそらく最後の機会

6. 15-28 節

独裁者による迫害、苦難、惑わし

15 節 荒らす憎むべき者の出現

16-20 節 エルサレムの包囲と占拠

21 節 大艱難

①**23-25 節** 独裁者、反キリスト

②**11、24 節** 偽預言者

③**24 節** 偽りのしるしと不思議

7. 29 節

天変地異、天の万象の揺り動かし

一太陽は暗く、月は光を失い、星は天から落ちる一

➡ 黙示録 6 : 12-17

小羊の七つの封印の**第六**

* 大地震、毛の荒布のように黒い太陽、全面が血のような月、星の落下、天消失、山、島の移動

「**産みの苦しみの**」がもたらすもの

↓
キリストの再臨

聖書

8. 27-28、30-31 節

人の子が来る前兆 —いはずま、はげたか—
空に現れる「人の子のしるし」と携挙

9. 29-31 節

主の再臨直前まで続く地の苦難
⇒ 忍従の信徒に再臨がもたらす輝かしい栄光

→ 黙示録 8 : 1

小羊の七つの封印の**第七**

*「天に半時間ばかり静けさがあった」

→ ② 神の意識的なデザイン

黙示録 6-8 章とマタイ 24 章の比較				
黙示録	聖句	マタイの福音書	聖句	
封印 1	白い馬 —征服者—	6 章 1-2 節	偽キリスト	24 章 4-5 節
2	赤い馬 —戦争—	3-4 節	戦争	6-7 節
3	黒い馬 —ききん—	5-6 節	ききんと地震	7 節
4	青白い馬 —死—	7-8 節	死 (1-3 の結果)	8 節
5	殉教死	9-11 節	殉教死	9 節
6	世界的な混乱	12-17 節	世界的な混乱	10-12 節
幕間	キリストを証しし続ける	7 章 9-17 節	福音宣教	13-14 節
7	天の静けさ、聞かれた祈り、最後の大地震	8 章 1-5 節	天の万象の揺り動かし、人の子の到来	29-31 節

『一人で学べるキリストの啓示 —「ヨハネの黙示録」の預言—』 p.489-490 から

主の再臨への備えと信じる者への主の約束

10. 32-51 節

★32 節

いちじくの木のとえ

★33-36 節

これらのことが全部起こってしまうまでは、この時代は過ぎ去らない

★37-44 節

人の子が来るのは「ノアの日のように」 —ひとりを取られ、ひとりが残される—

★45-51 節

留守の管理を任された「忠実な思慮深いしもべのとえ」

ノアの日のように マタイ 24 章、ルカ 17 章

- 1) 「人に感わされないように気をつけなさい」
- 2) 「人の子が来るのは、ちょうど、ノアの日のようなだからです」

預言的警告

1. マタイ 24 : 37 洪水による、八人を除く全人類の滅び
2. 創世記 6 : 12 「すべての肉なるものが、地上でその道を乱していた」

背後にサタンの策略

- ① メシヤの受肉、来臨をはばむため、人間の系図を破壊する試み
- ② メシヤの到来が約束されたユダヤ人への攻撃
- ③ 神の国の構成員を妨害する策略、キリストの証人たちへの攻撃

3. ペテロ第二 2 : 4

ここで「地獄」に用いられているギリシャ語は特殊用語「タルタロス」、暗やみの底なし穴の意

4. レビ記 20 : 15-16

獣と不自然に関わることの禁止、獣との異常な行為が死に値することを警告

⇒ 人の DNA を動物に移す遺伝子工学が示唆しているのは？